

令和5年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	2	学 校 名	静岡視覚特別支援学校	校 長 名	佐々木 雅則
------	---	-------	------------	-------	--------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
【育む】	○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の充実と改善を図る。	①チーム研修を中心に、幼児児童生徒のあらわれや事後研から授業改善につなげることができたと答える教職員（100%）	97 %	A	「主体的・対話的な深い学び」につながる授業・生活づくりに向けた毎月のグループ研修や指導案の検討、SV研修などを計画的に実施できた。また、幼児児童生徒の学びの姿から様々な手立てを考えることができ、授業改善につなげることができた。
		②授業や活動を「わかった」「できた」「もっとやりたい」などと答える幼児児童生徒（100%）	100 %	A	・分かりやすく授業を進めてもらおうとともに安心した生活ができている。 ・自立活動の授業における白杖歩行などのことを覚え、安全に移動できるようになりたい。
		③ICT機器の充実と適切な活用のために充当した学校経営予算の割合（10%程度）＜事務＞	100 %	A	仮移転後の施設設備の不具合対応が多く、機器の充実という点では疑問があるが、学校経営予算の充当割合は、達成できた。
		④授業や生活場面において集団構成を工夫して、子ども同士や多様な他者と学び合う場面を設定したと答える教職員（100%）	100 %	A	・授業グループの構成やオンラインを活用した交流、共同しての校外学習など様々な工夫が見られ、意欲的に活動する児童生の姿が見られた。 ・寄宿舎では、普段の生活や多くのイベント等を通して、お互いの良さを認め合ったり、進んでコミュニケーションを取ったりするなど成長を感じることができた。
		⑤全教職員が1人1授業公開を実施（100%）	96 %	A	計画的に1人1授業を実施できた。事後研修においては、各学部ごとのテーマに沿った話し合いができ、次の指導につなげることができた。他学部等の参観が難しかったので、この面の工夫を考えたい。
	○将来の生活を豊かにするためのキャリア教育を推進する。	⑥キャリア教育学習プログラムを活用し、学部内で年に2回以上検討する。	84 %	A	面談等で個々に進路に関する話をすることができた。「キャリア教育プログラム」については、十分に活用できていない面があり、今後活用方法を検討していく。
		⑦学校からの情報を参考に、進路に関する考えが深まったと答える保護者（100%） ・進路学習会 施設見学会（各1回） ・進路だよりの発行（3回）	100 %	A	施設見学会では、多くの施設を見学でき、子どもの進路の参考となった。保護者学習会では、他の保護者の皆さんからいろいろと話を聞くことができた。今後も学習会の機会を増やしてほしい。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
【守る】	○幼児児童生徒が、互いを尊重して安全で安心して生き生きと学習できる環境を整備する。	①人権学習会やグループワーク等を学部ごと年3回実施する。	92%	A	学部等で行った人権に関する話し合いは、教職員の主体性を引き出すことができ、意識の向上につながった。今後も幼児児童生徒や職員同士の言葉づかいについても、研修を進めていきたい。
		②来室した幼児児童生徒を尊重した対応をした職員(100%) <事務>	100%	A	昨年度から継続して対応できた。人事異動で勤務する職員の入れ替わりが予想されるが、継続していきたい。
	○幼児児童生徒の健康管理の徹底と危機管理体制を整備する。	③医療的ケア、アレルギー対応を含む幼児児童生徒の怪我や、体調の変化による緊急時の対応を理解し、学部やグループ内で共有できた教職員(90%)	97%	A	教員の日々の健康観察は、確実に行えるようになってきている。感染症等の対応についても連携を取りながらスムーズに行えた。怪我等の対応については、年度当初に行っているが、年度途中でも見直すなどの対応も必要である。
		④各学部、分掌と連携し、幼児児童生徒が安心して活動したり、移動したりするための学習環境整備を行った教職員。(100%)	100%	A	移転後に教員がアイマスクをして校内を移動する体験を行ったことは、学習環境を考える上で、大変有意義であった。その後も幼児児童生徒の安全について、様子を見ながら環境を変えていくなどの工夫も見られた。
		⑤移転前後の学校において、動線上の障害や教室内の不具合を修繕等により解消又は軽減した件数(5件程度)	100%	A	教職員の協力で、計画的に移転作業を行うことができた。幼児児童生徒が安全に移動できるように、シャッターを下げたり、マットを置くなど、話し合いの中で工夫や改善ができた。
		⑥発災時における時系列に沿った行動を理解し、訓練や研修等で共有できた教職員(90%以上)	100%	A	静岡南部特支への仮移転後もマニュアルの改訂や合同の防犯・防災訓練など、発災時にどのような行動を取ることがいいのかを教職員全体で考えることができ、防災意識が高まった。
	【つなぐ】 ○教職員の専門性の維持・継承と授業力を向上させるとともに、そのための職場環境を整備する。	①新任研や自立活動学習会などで学んだことを活かし、専門性を向上した教職員。(90%以上)	94%	A	新任者研修は、大変意義があり、その後の指導に役立っている。自立学習会においても事前の検討が学部等で行われ、理解がより深まった。歩行については、チェックリストを見直し、更なる指導の充実に努めたい。
		②自他を大切にし、お互いの人権を尊重した関わりができたと答える教職員(90%)	100%	A	学部毎の研修や人権チェックシートの年2回の実施等で、教職員の人権意識は、高まってきている。児童が書いた廊下のポスターもとても良かった。全体計画や年間計画の作成を進めたい。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
		③会議や業務が計画的かつ効率的に進められ、成績処理業務や新しい環境での授業準備に充てる時間がもてたと答える教員(80%以上)	100%	A	会議は、効率的に運営され、成績処理の時間等も確保できた。移転後も落ち着いた学校運営ができています。来年度の年間授業時数については、今後検討していく。
		④業務を効率的に処理できるような手立てを検討又は実施した件数(10件程度) <事務>	100%	A	仮移転後の業務軽減を目指したが、時間的余裕がなかったことから、検討にとどまったものや教職員全体に効果が表れるものではなかった。検討段階のものの実施への移行が課題になる。
【つながる】	○超早期から成人まで切れ目のない支援体制(地域支援体制の充実)	①眼科や保健師等と連携して早期支援につなげた取り組み(10件)	96%	A	こども病院眼科医師、地域の保健師等と多くの情報交換ができた。校内への発信の充実にも努めたい。
		②関係機関(医療や福祉等)に向けた視覚障害教育の理解推進活動(10件)	96%	A	園や学校への訪問により、担任だけでなく関わる教員や保護者等に見えにくさの理解と支援について考えることができた。
	○他者との交流を大切にし、幼児児童生徒の周囲への興味・関心を広げ、社会経験の拡大と社会性を育む。	③交流相手校と連携して計画し、幼児児童生徒が活動を楽しめた、充実した時間をもてたと答える教員(100%)	96%	A	交流籍校や西豊田小学校、中部盲校などオンライン等を活用し、交流の数も増えた。児童生徒同士の交流の深まりが見られるなど、充実した交流ができた。
	○地域との連携・協働体制の整備を図る。	④幼児児童生徒の興味・関心を広げたり学びを深めたりするために、外部人材や校外学習等を活用できたと答える教職員(80%)	100%	A	歩行指導や地域探検、フラワーアレンジメント教室など、外部人材を招き、学部や分掌で計画し、幼児児童生徒の学習の場を広げていくことができた。
		⑤協議会の意見を反映し、幼児児童生徒と地域が連携した取組ができる。(3回以上)	94%	A	協議会の内容を「地域との連携」としたことで、委員の皆様から多く意見をいただき、取り組めたことも多かった。全職員へ周知という面では課題がある。